

しかはま自然観察会  『人も 自然も みんなともだち !』No.12	代表責任者 古高 利男 ☎270-1132 我孫子市湖北台2-14-7 ☎090-7275-9890 2018, 12, 8
---	---

第12回活動「サケの受精卵の配布とクズ籠づくり」

1年ぶりのサケの受精卵の配布。
 皆さん、この日を待ち望んでいたような表情で、
 卵を受け取っていました。
 クズの籠づくりは2回目です。前は、全体像をつかむのに
 精一杯だったようです。が、今回は、皆さんの動きが機敏で
 した。
 全員が、出来上がったクズ籠を持って、ハイチーズ！

- 1, 日 時： 2018年12月8 (日)

午前 11:00～12:00	サケの受精卵の配布 サケの紙芝居
12:00～ 1:00	昼食
午後 1:00～ 3:00	クズの籠づくり

- 2, 天 気： 晴れのち曇り
 気温・・・風はなく、暖かかった。日が沈み始めた3時頃にな
 ると肌寒さを感じた。11, 5℃

- 3, 交 通：○現地集合

- 4, 場 所：○都市農業公園藤棚の下、および荒川河川敷

- 5, 参加者：総数 15人

内訳	6家族	大人	6
		小学生	4
		幼児	2
		スタッフ	3

*サケの受精卵4000粒購入 (久慈川漁業協同組合より)

- * サケの受精卵配布者
- ◎ 保育園・幼稚園・・・8
 - ◎ 小学校・・・・・・・・2
 - ◎ のらえもん会員・・・7

6, 活動の様子

◎サケの受精卵配布のときの様子

* 赤いサケの卵を見て「エッ、こんなんになっているんだ！」と驚いているお父さん。「イクラだー！」と声を出す子どもたち。黒い目玉がギョロリッと動いてビックリするお母さん。そんな中を、サケの卵を取りに来た保育園の先生・小学校の用務主事さん・幼稚園の運転手さん、そしてのらえもんの子どもたちやお母さんたちが、スプーンで次々と赤い卵をすくっていきます。

配布終了後は、「サケの一生」の紙芝居です。「オレ、読みたい！」と、すぐに手が上がりました。栗原寛太君です。

寛太君が読み始めると、回りに集まった子どもたちは目をまん丸に開けて聞いています。知らないおじさんも、聞いてくれました。

放流の3月2日まで、元気に育てようと決意したようでした。

◎クズの籠づくり

11月10日に、初めて挑戦しました。2回目の今日は、それぞれが河川敷にクズの蔓をとり散っていきました。

ブルーシートの上では、蔓との格闘が始まりました。曲がっている蔓はなかなか思うようにはいきません。それでも、前回の体験を生かしてなんとか曲げ続けています。思い思いのクズの籠の完成です！

山口さんは、網目をきれいにそろえ、「じょうず！」と称賛されました。

7, 親と子の、いきいき感想

- ふるたか先生が天気おとこになった。あと、さけを125ひきもらった。

それに、かごもつくれて、きょうはさいこうでした。

くさむしり たいへんなのが いやですよ (クズをとるときの様子)

栗原北小4年

- 今日は、楽しみなサケの卵の受け取りでした。(去年はダメだったので・・・)

今年も大事に育て、3月2日に放流するゾー！

目玉だけ これからそだつぞ サケのたまご

母

- (クズの籠づくりは) すこしめんどくさかったけど、いがいとたのしかったです。

今日は すずがシートでねて おこられた

北区立滝野川第三小2年

- シャケのたまごをもらった。

はじめてあかちゃんがいっているたまごを、見た。

北区立王子小1年 こせ なつみ

- 籠づくり、たのしかったです。サケのたまごの成長を楽しみに、大切に育てます。ありがとうございました。

野の草も 編めば素的な カゴになる

西新井幼稚園年長

母